

教育研究所年報

第 29 号

2020

文教大学教育研究所

教育研究所年報 第29号

目 次

2019年度 事業報告

事業報告	3
教育研究所新規事業「名著の読みかた」	4
第26回「世界の教科書展 特集：台湾の教科書」	5
世界の教科書展：文教大学教育研究所コレクション	7
定例研究会	8
諸外国の教科書収集	10

2020年度 事業計画

事業計画	12
------	----

2019年度 事業報告

<研究部> 研究部主任 山川 智子

1. 「世界の教科書展」の実施

例年通り、第26回「世界の教科書展 特集：台湾の教科書」を、越谷キャンパス学園祭（藍蓼祭）の期間中（11月1日～3日）に開催した。教科書、解説パネルの展示（翻訳、解説は本学非常勤講師・綿貫哲郎先生）を行い、11月2日（土）には、レクチャー「台湾の小学校歴史教科書より」を開催した。さらに、2016年度から行っている桶川での巡回展も引き続き開催した（12月7日～8日、「OKEGAWA hon+」にて）。

2. 「名著の読みかた」（シリーズ企画）の実施

2019年度の新規事業「名著の読みかた」を「OKEGAWA hon+」（桶川）で開催した。第1回3月24日（講師：大島丈志先生）、第2回7月20日（講師：実川恵子先生）。

3. 『教育研究所年報』第28号の発刊

『教育研究所年報』第28号を5月に発刊した。2018年度事業報告として、第25回「世界の教科書展 特集：諸外国語の英語教育」、大友美奈先生（玉川大学語学学習指導員、品川区英語専科指導員 JTE）による公開模擬授業、桶川での巡回展、『教育研究紀要』第27号、定例研究会、諸外国の教科書収集表、（公財）モラロジー研究所からの受贈教科書、2019年度事業計画を計13頁に掲載した。

4. 客員研究員の受け入れ

国内の学術機関（他大学を含む）から計5名の客員研究員を受け入れた。

5. 「定例研究会」の実施

2019年11月3日（日）に「定例研究会」を実施した（通算第98回）。

<研修部> 研修部主任 手嶋 将博

1. 『教育研究所紀要』第28号の発刊

2019年12月21日付で『教育研究所紀要』第28号を発刊した。特集テーマは「共生社会における『多様性』を教育の場でいかに保障するか」で、テーマに関わる依頼論文4編、自由研究の研究論文7編、実践研究3編という内容であった。

2. 『教育研究所ニュース』の発刊

2018年度から年1回、10月に発刊。第49号は巻頭言を「教育研究所新規事業『名著の読みかた』」とし、世界の教科書展と桶川市における世界の教科書の巡回展、定例研究会開催のお知らせ、文教大学の授業の執筆者紹介を掲載した。

3. 『文教大学の授業』の発刊

第68号「教員資質豊かな栄養教諭を育てたい～『教職実践演習』を通して～」（健康栄養学部 松田素行先生）、第69号「効果的な初年次教育を探して～『人間科学の基礎』の授業から～」（人間科学部 谷島弘仁先生）、第70号「ヘルスリテラシーを育成する保健教育」（教育学部 山本浩二先生）、第71号「留学生とのティームティーチングを通しての学び：『英語演習Ⅲ』、『英語科教育法Ⅱ』」（文学部 渡辺敦子先生）。

4. 教育研究所ホームページの運営・更新

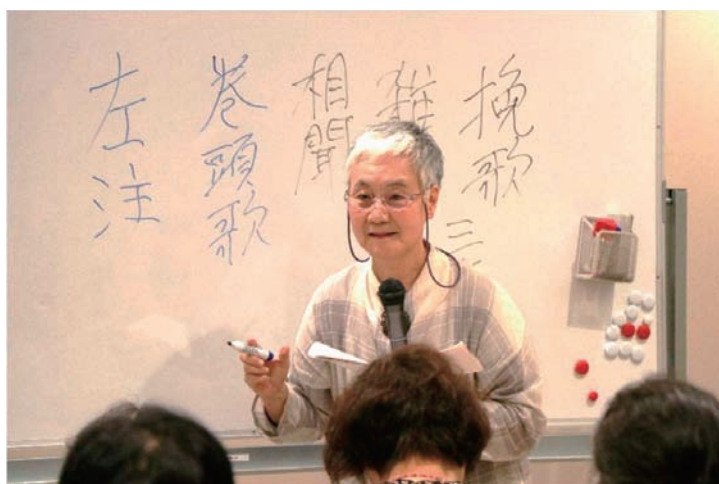
前年度までと同様、教育研究所の各事業終了後は、速やかに研究所ホームページに掲載する情報の更新を行い、本研究所の事業活動を広く社会に発信することに努めた。

教育研究所新規事業「名著の読みかた」

教育研究所所長 平 正 人

実施概況

今年度、「名著の読みかた」と題した公開講座を新規事業として立ち上げた。本事業の最大の目的は、現代まで読み継がれる名著の面白さを専門家の解説を交えて体感する機会を提供することにある。公開講座の開催にあたっては、丸善雄松堂株式会社教育・環境ソリューション事業部の協力のもと、埼玉県の桶川駅前公共施設「OKEGAWA hon+」を会場として、2019年3月24日（土）に第1回公開講座「宮沢賢治の作品世界を楽しもう 賢治が歩いた埼玉」（講師：大島丈志先生）、7月20日（土）に第2回公開講座「万葉集の魅力 令和を迎えて改めて読み直す」（講師：実川恵子先生）を開催した。どちらの講座も、予定参加者数を上回る参加申込があり、終了後には「賢治の世界がふくらんだ」（第1回参加者アンケート）、「令和元年にふさわしい講座でした。もう少し深く読みたいです」（第2回参加者アンケート）などの好意的な感想が多数寄せられた。教育研究所は、今後も引き続き、名著との出会いの場を提供し、それらの面白さをひろく発信していきたいと考えている。



第26回「世界の教科書展 特集：台湾の教科書」

研究部主任 山川 智子

実施概況

越谷キャンパスの学園祭（藍蓼祭）で開催している「世界の教科書展」は、教育研究所の特色ある取り組みのひとつである。ある地域の、初等教育に焦点を当て企画・運営を行うこともあれば、複数の地域の、特定科目の教科書に焦点をあてたこともある。主として初等教育の教科書を展示し、教育制度や教科書の内容を紹介している。来場者との意見交換の場として、教科書展は発展してきた。

2019年で26回目を迎えた「世界の教科書展」では、台湾の教科書に焦点を絞った。11月1日(金)から3日(日)にかけて、8202教室で開催した。展示パネルの解説及び教科書翻訳は、本学非常勤講師・綿貫哲郎先生にお願いした。11月2日(土)には、公開講座として、綿貫先生によるレクチャー（「台湾の小学校歴史教科書より」）も行われた。

台湾は1895年から1945年迄の51年間、日本の統治下にあった。学校教育は日本語で行われ、この時代に教育を受けた世代は「日本語世代」と呼ばれ、日本語を話すことができる。台湾の歴史教科書には、日本統治下にあった時代についても記述されている。日本が外からどのように認識されているのかを知る機会となった。

現代の台湾の国民教育では、公用語である中国語、各民族における母語（郷土言語である閩南語・客家語・原住民の言語）とともに、英語が教えられている。小学校5年生から開始された英語教育も3年生に引き下げられた。教育に熱心な台湾であるが、地域によって、特に都市と地方とでは、教員の力量にも違いがあるなど、課題もある。日本の状況を比べて考えていきたい。

「世界の教科書展」は、学生アルバイトのサポートなしには考えることができない。今回の教科書展においても学生たちの活躍があった。紙幅の都合ですべてを挙げることはできないが、事前準備の他にも、たとえば週末に来場するたくさんの子どものために、大人と一緒に楽しめるようなクイズを考案してくれた。さらに、台湾のタピオカやランタンをイメージした折紙作品の準備、そのランタンに願いごとを書いて掲示していくという手順を整えてくれた。これらの工夫は素晴らしく、皆で作りに上げていく教科書展の伝統を垣間見る瞬間であった。研究所スタッフ一同、深く感謝している。

2016年度からの試みとして特記すべきこととして、ITの活用がある。教科書展開催中のレクチャーの他、インタビューの事前録画の入ったiPadを会場に設置し、来場者が気軽に閲覧できるようにした。事前収録では綿貫先生から話をうかがった。台湾の教育の概観、日本との相違点、台湾の人々の教育に対する考え方について等、語っていただいた。事前収録を行ったことで、教科書展に向け、気持ちを高めることができた。教科書展に足を運んでくださった方たちも、気軽にiPadを操作して教科書展の内容を把握されていた。多くの方たちに教科書展に足を運んでいただけたことで、台湾の教育に関する理解を深めていただけたと考えている。



第26回 世界の教科書展 会場アンケート(抜粋)

本学卒業生

- ・意外と日本の教科書のレイアウトと似ており、文字が読めなくてもなんとなく理解することができました。また、説明のボードもしっかりしており、博物館並みのクオリティでとても勉強になりました。
- ・台湾、観光地として有名だけど、歴史的に非常につながりがあるということを改めて実感しました。カリキュラムの特徴にある弾力化、連続化、すごく興味深いです。ありがとうございました。
- ・身近な国でも知らないことが多く、今回の展示で分かって良かったです。

本学学生・院生

- ・日本の指導要領にも「弾力的な」という言葉の記載がありますが、台湾は日本よりもずっと弾力的にカリキュラムを設定しているのだなと思いました。日本の英語教育も1年生からに早まるのでしょうか？
- ・台湾と日本の教科書は言葉が違うだけで、その他は似ているように感じました。多くの教科書を見比べることができたので、とても良い勉強になりました。
- ・台湾の教科書をはじめてみました。小学校は絵が多く、日本統治が6ページにも渡って書かれていることを初めて知りました。日本と比較出来て楽しかったです。
- ・4年目にして初めて来ましたが、もっと早く来ればよかったと後悔するほど素晴らしいものでした。楽しかったです。
- ・昨年も見させていただきました。昨年はドイツなどヨーロッパの教科書で今年は台湾という身近な国の教科書・文化について知ることができました。ありがとうございました。

高校生

- ・数学の教科書の内容が日本と似ていて驚きました。
- ・台湾の英語教育は進んでいると思いました。小六の教科書からListening や reading があって驚きました。
- ・教育学部を志望する身としては非常に興味深かったです。貴重な展示をありがとうございました。

小学生

- ・クイズが楽しかったです。
- ・初めて見たのでおもしろかったです。

本学教職員

- ・海外で実際使っている教科書が手に取れて、新鮮でした。
- ・iPadでのインタビューが、分かりやすいと思いました。
- ・台湾へまた行って、もっと詳しく観てみたいです。
- ・毎年ありがとうございます。「日治時代」の教科書記述、ピックアップしてくださり、うれしいです。
- ・動画の内容がとてよくわかりやすく、よりイメージがしやすかったです！

本学学生の家族

- ・台湾のことが、詳しく解説してあり分かりやすかったです。1945年まで、日本語を話せる人がいる事も分かりました。ありがとうございました。
- ・貴重な資料を実際に手に取ることができ良かったです。来年も見に行きたいと思います。
- ・台湾は行ったことがあったので、大変興味深く拝見いたしました。教科書の内容は日本のものと内容も似ており身近に感じました。特に社会科の教科書、歴史の扱いが興味深かったです。
- ・日本の生活科と違い、生活の中で音楽や図工を学び、3年生から音楽や図工の教科書があるのに驚きました。総合的な学習については1年生から学んでいて、日本に似ているところもありますが、台湾の独自性が見られました。
- ・少し中国語を学んでいたもので、台湾の漢字・音字との違いを探るのが面白かったです。

その他

- ・海外教科書を初めて手にして大変興味深いものでした。機会があれば各国の教科書で日本がどのように記述されているのかを企画して欲しいです。
- ・日本よりも一歩進んだ教育を受けておられるようでした。漢字の難しいものが低学年の頃から教育の中に定着しているのが、興味深かった。
- ・毎回興味を持って見えています。特に台湾は同じような漢字を使う教科書だったので、親しみがわきました。
- ・日本以外の教科書を見たことがなかったので、興味深かった。特に「日本統治時代」の事をどのように教えているかが気になり入った。台湾の教科書は、私が学生時代に学んだことより多岐にわたり、新しい内容が多いと驚いた。

世界の教科書展：文教大学教育研究所コレクション －特集 台湾の教科書－

日時：2019年12月7日（土）、8日（日）、10時～19時
会場：「OKEGAWA hon+」（桶川駅西口駅前桶川マイン3階）
共催：丸善雄松堂株式会社

研究部主任 山川 智子

「世界の教科書展」は、文教大学教育研究所の特色ある取り組みの一つである。毎年、越谷キャンパス学園祭（藍蓼祭）で開催している。1994年度からはじまった教科書展は、2019年で26回目を迎えた。この間、世界各地の教科書を収集し、保管してきた。この地道な活動が各方面にも知られるようになり、2017年度には、モラロジー研究所から教科書の寄贈を受けた。現時点でおよそ30か国・地域の教科書を保有し、その数は約1万冊に達する。教育研究所として、引き続き収集、保管活動を展開していく予定である。

これらの教科書を財産とし、教育研究所は「教育に関わる幅広い研究の推進とそれに基づく社会的貢献」を目的として、学内外の研究者の協力のもとに様々な研究に取り組んでいる。なかでも、藍蓼祭で開催される「世界の教科書展」は広く関心を集めることができ、研究所の特色あるイベントとなっているが、このコレクションの全貌を一般の方たちにも広く知っていただくべく、2016年度からは、学外巡回展を行っている。

今年で4回目となる学外巡回展は、同じく桶川の「OKEGAWA hon+」（桶川駅西口・桶川マイン3階）にて、12月7日（土）～8日（日）に開催された。これまでと同様に、丸善雄松堂株式会社教育・環境ソリューション事業部との共催という形で行った。

11月の藍蓼祭の展示と同様、台湾の教科書を展示し、8日には公開講座を開催した。講座の内容は、綿貫哲郎先生（本学非常勤講師）によるレクチャー（「台湾の小学校歴史教科書：日本統治時代の記載より」）であった。日本と台湾の複雑な関係を具体例を交えながら語っていただいた。

12月7日（土）の開催直後には、さいたまテレビの取材を受けた。メディアで取り上げられることにより、台湾と日本との関わりについて社会の関心がさらに高まっていくのではないかと思う。大学と地域とが連携し、情報共有し、ともに教育を考えていく時代である。地域の方たちに教育研究所の活動を紹介する機会を少しでも増やしていければと願っている。

世界の教科書を収集し、保管する研究機関は国内でも珍しく、近年はメディア関係者や他の研究機関からの問い合わせも増えている。一般の方たちからも連絡をいただくようになった。今後、このような貴重な資料をどのように活用し、どのような形で公開していくかに関しては試行錯誤の連続であるが、「教育に関わる幅広い研究の推進とそれに基づく社会的貢献を果たす」という教育研究所の理念に向けて精進を重ねていきたい。



定例研究会

教育研究所所長 平 正 人

今年度の第98回定例研究会は、文教大学越谷キャンパス藍蓼祭（2019年11月3日、9時30分～12時00分、場所：8201教室）において開催した。報告題目は以下の通りである。

「社会教育の学習手法に関する研究 ―主体形成を目指す学習実践の在り方―」（台東区教育委員会：阪本 陽子）、「ビブリオバトルを取り入れた授業実践の可能性」（彰栄保育福祉専門学校：綾 牧子）、「学校と博物館が学び合える場を目指して ―川越小学校の博学連携による教育活動の可能性を探る―」（川越市立川越小学校：清水 香保里）、「インドネシアと東北を行き来する『双方向スタディツアー』 ―インドネシア人参加者の変容に着目して―」（特定非営利活動法人地球対話ラボ：中川 真規子）、「基礎教育の保障 基礎教育に対する効果的なアプローチ ―夜間中学校を中心に―」（聖徳大学心理・福祉学部：矢作 由美子）。

本研究所が定期的に行う定例研究会は、本学の教職員、学部生、大学院生をはじめ、本学を卒業・修了したOB・OGや現役の教員など、学内外を問わず誰でも参加、聴講、質疑応答ができる場であり、教育に関わる幅広い研究の推進とそれに基づく社会的貢献を果たすとともに、教育・教育現場をめぐるさまざまな状況の変化に応じて、常に新しい情報や知見を発信していくことを目的としている。



定例研究会における発表の様子

2019年度定例研究会発表要旨

<第98回 2019/11/3（日）>

社会教育の学習手法に関する研究 ―主体形成を目指す学習実践の在り方―

阪本 陽子

社会教育実践は、学習者が自分で自分を上げる主体形成の営みにその主軸がある。しかし、昨今の社会教育事業では、学習者はただ提供されたものを享受する学習に身を置かされることも多く、社会教育実践の手法そのものが主体性喪失につながっていることも否めない。学習支援の実践技術への注目は高まっているが、学習支援の方向性を決定づけるのは学習支援者の教育観であり、改めて社会教育実践の意味と学習支援者の役割について、認識を持つ必要がある。

ビブリオバトルを取り入れた授業実践の可能性

綾 牧子

昨年度に引き続き、ビブリオバトルを保育者養成の授業の中に取り入れ、その授業実践の可能性を探った。今年度は、ビブリオバトルの機能のひとつであるコミュニティ機能に着目し、継続的な実践によって、学生がビブリオバトルの楽しさを客観的に捉えられるようになることを目指した。そのため、いくつかの科目の授業の中で継続的に実施した。人前で話をすることに躊躇する場面もあったが、継続的な実践によって徐々に慣れていき、また楽しさを実感していることがわかった。

学校と博物館が学び合える場を目指して

ー川越小学校の博学連携による教育活動の可能性を探るー

清水 香保里

新学習指導要領が目指すところは、「社会に開かれた教育課程」の実現である。そこで、本校では、全学年カリキュラム・マネジメントを作成し教育課程を見直してきた。そして、埼玉県より「博物館・美術館等を活用した子供パワーアップ事業」の委嘱を受けて、博学連携カリキュラム・マネジメントを作成し、主体的・対話的で深い学びの視点で学習過程の改善を行った。川越市立博物館、川越市立美術館と連携して行った実践研究と、その成果と課題をまとめて発表した。

インドネシアと東北を行き来する「双方向スタディツアー」

ーインドネシア人参加者の変容に着目してー

中川 真規子

インドネシア・アチェと東北の間で実施している「双方向スタディツアー」に参加したインドネシア・アチェの若者に対してインタビュー調査を実施した。インタビューから、参加者が日本への訪問やアチェでの日本人受け入れ体験を経て、ステレオタイプの日本人像や自身の文化や価値観について、より多面的・多角的な解釈が生まれたことが明らかとなった。「双方向スタディツアー」への参加により、参加者は、既存の枠組みを捉え直す機会を得たと言えるだろう。

基礎教育の保障 基礎教育に対する効果的なアプローチ

ー夜間中学校を中心にー

矢作 由美子

基礎教育の保障における多様な学びと今後の実践的課題として、新時代の夜間中学校の再評価を目的に、義務教育段階の学校教育とは何かが問われている。そこで、(1) 学校段階の基礎教育という観点からの夜間中学校の取り組みと、(2) 学校後の基礎教育という観点からの夜間中学校という二面性のある現場から、教育委員会、学校、支援者等からの聞き取り調査、及び参与観察等の実態調査を行い、その得られた成果を検討し発表した。

諸外国の教科書収集

教育研究所では、設立当初より海外の教科書を収集してきた。収集した教科書は「世界の教科書展」に展示し、近年はマスコミからの問い合わせや取材依頼も多い。2019年度は、アメリカ、マレーシアの教科書を合計149冊収集した。これまでに教育研究所が収集した諸外国の教科書は、次のとおりである。

1. 初等学校 (計24カ国 2016冊)

(2020年3月31日現在)

国	教科	国語	社会	算数	理科	生活科	総合科	音楽	美術	体育・健康	実科	英語	日本語	道徳・宗教	情報	国際理解	その他	計(冊)
アメリカ		42	16	45	8		5										3	119
イギリス		20	12	8	12										10			62
インド		141		5			10			7				9	15			187
インドネシア		6	12	6	6				6	2		6		6			6	56
オーストラリア		60	7	23	18				6	10	6		3	3		1	7	144
オランダ		2	3	6	6							1					2	20
韓国		26	14	23	16	10		4	4	8	2	6		10			8	131
シンガポール				23	13					6		5						47
スイス		2		1														3
スペイン		6	4	6	6		4					6		7	2		1	42
スリランカ		7		5								6		6				24
タイ		12	6	7	6	1	1		2	6	6	6					6	59
台湾		18	12	21	12	6	18		12	18		23						140
中国		10	11	16	15			6	5			44		6			1	114
ドイツ		8		11		20	4	2	3			17		3				68
トルコ		22	19	18	16							18		19			22	134
バングラディッシュ		5		3								1					3	12
フィンランド		28	7	26	18							13						92
ブラジル		10	9	9	9				5			5		11			6	64
フランス			10	7								20						37
ポーランド		1		1	1													3
マレーシア		36	6	36	22	10		3	7	16	3	41		30	3		15	228
ラオス		10		10		10			5	5		6					5	51
ロシア		51	1	27	3	26		4	9	4	11	36			7		3	182
計		523	149	343	187	83	42	19	64	82	28	257	3	110	37	1	88	2016

※冊数には教科書の他に教師用指導書、ワークブック等含まれています。

※トルコの教科書については、教育制度の理由から小中学校で使用されている教科書の数値。

2. 中等学校(前期・後期) (計 15 カ国 712) (2020年3月31日現在)

国	教科	国語	社会	歴史	地理	公民	数学	科学	生物	化学	物理	音楽・美術	体育	家政・技術	外国語	道徳・宗教	情報	その他	計(冊)
アメリカ			1	1	1		1			2								1	7
イギリス		8	8	3	3	2	4	6	1	1	1	2			2		2		43
インドネシア		3	3			3	3	3							3	3		3	24
韓国		5	2	2			3	3				4	2	3	5	2		3	34
シンガポール				3	7		3		1	4	2			2	4				26
スペイン		5		2	3	1	5	2	1		2	1	4	3		4			33
タイ		8	4				10	5				2	2	6				3	40
台湾		9	18	3	3	3	10	17	1			6	6		12			6	94
中国		9		16	8		10		6	5	7	8			11			1	81
ドイツ		3	2	31	9		8	2	3	2	2	5		1	8		2		78
ネパール							1	1							1				3
フィンランド		3	4	3	3		6		5	1	1	4	1	1	6	1		1	40
フランス		3		2	1		2								20				28
ラオス		14		7	7	7	8		3	3	3		1	8	18			15	94
ロシア		15	6	9	4		8		4	4	3	10	3	2	5	6	2	6	87
計		85	48	82	49	16	82	39	25	22	21	42	19	26	95	16	6	39	712

3. 公益財団法人モラロジー研究所からの受贈コレクション (計 18 カ国 7249 冊)

1) 本学研究所のコレクションに含まれていない国の教科書

国名	受贈冊数	国名	受贈冊数
香港	236 冊	旧東ドイツ	48 冊
イタリア	497 冊	旧西ドイツ	256 冊
カナダ	266 冊	旧ソ連	280 冊
スウェーデン	81 冊		

2) 本学研究所が所蔵しているものの、その数が少ない国の教科書

国名	受贈冊数	所蔵冊数	国名	受贈冊数	所蔵冊数
アメリカ	1489 冊	126 冊	スペイン	150 冊	75 冊
中国	832 冊	195 冊	フィンランド	97 冊	132 冊
韓国	549 冊	165 冊	ロシア	39 冊	269 冊
ドイツ	760 冊	146 冊	フランス	616 冊	65 冊
イギリス	735 冊	105 冊	スイス	150 冊	3 冊
台湾	168 冊	231 冊			

2020年度事業計画

<研究部> 研究部主任 山川 智子

1. 「世界の教科書展」の実施

世界各地における教育の現状を理解するための資料として収集した教科書、および解説パネルを展示し、海外の教育事情を紹介する。例年通り、「世界の教科書展」を越谷キャンパス学園祭（藍蓼祭）で開催する。2020年度はアメリカの教科書を展示する。さらに、2016年度からはじまった学外での展示として、「OKEGAWA hon +」（桶川）でも「世界の教科書展」を開催する予定である。

2. 「名著の読みかた」（シリーズ企画）の実施

2019年度からの新規事業「名著の読みかた」を、年2回「OKEGAWA hon +」（桶川）で開催する予定である。

3. 『教育研究所年報』第29号の発刊

2020年5月に発刊予定である。世界の教科書展の報告、定例研究会報告など、前年度の活動報告および今年度活動計画を中心に、13頁にまとめて掲載する予定である。

4. 客員研究員の受け入れ

国内の学術機関（他大学を含む）から、5名の申請者があった。教育研究所会議にて審議を行う予定である。

5. 「定例研究会」の実施

2020年度は藍蓼祭期間中（2020年11月、通算第99回）に実施する予定である。

<研修部> 研修部主任 手嶋 將博

1. 『教育研究所紀要』第29号の発刊

『教育研究所紀要』第29号の特集テーマは4月の研究所会議にて正式決定し、5月中旬に、特集テーマに関する論文の依頼、および投稿論文等の募集を開始する。原稿締め切りは9月下旬で、2020年12月に発刊予定。

2. 『教育研究所ニュース』50号の発刊

本研究所の事業の進捗状況や活動の報告を中心に、学内外にそれを知らしめていく広報誌としての役割を担う本誌は、5月に『教育研究所年報』が出る関係から、2018年度より年1回の発刊となり、2020年10月中旬に発刊予定。

3. 『文教大学の授業』72、73、74、75号の発刊

引き続き、文教大学の教員の授業を学内外に紹介していく。2020年度は、教育学部 平正人先生（5月・72号）、文学部 リチャード・ローガン先生（7月・73号）、人間科学部 秋山美栄子先生（10月・74号）情報学部 竹林紀雄先生（1月・75号）に執筆いただく予定である。

4. 教育研究所ホームページの運営・更新

2020年度も引き続きコンテンツの整備と発信内容の精査、積極的な情報発信に力を入れていく。

2019年度

所長	平 正人		
研究部主任	山川 智子		
研修部主任	手嶋 將博		
事務	河口 恭子		
客員研究員	綾 牧子	阪本 陽子	清水 香保理
	中川 真規子	矢作 由美子	

2020年度

所長	平 正人		
研究部主任	山川 智子		
研修部主任	手嶋 將博		
事務	河口 恭子		
客員研究員	綾 牧子	阪本 陽子	清水 香保理
	中川 真規子	矢作 由美子	

教育研究所年報 第 29 号

発行日 2020 年 5 月 1 日

発行者 文教大学教育研究所
〒343-8511 埼玉県越谷市南荻島 3337
電話 048-974-8811

印刷 有限会社 カワカミ印刷
電話 048-976-0007
